



『文字文化財研究所』発足を祝って

阿久根 治子

一九五四年鼎短卒

詩人・作家

「文字文化財研究所」の発足を、心からお祝い申し上げます。振り返りますと、新聞紙上をお借りして、この研究所名称を（仮称）として始めて発表したのは、平成十七年三月九日（二〇〇五）のことでした。以来三年を経て、唯今ここに確かな実現の日を迎えることになりましたのは、清水理事長・佐々木学長・大飼教授をはじめとして、諸先生方の厚い御努力があつて、そのことと深く感謝致しております。

当然のことながら、この謝意はひとり私個人にとどまるものではありません。時間的に見れば、

千数百年の過去より現在・未来まで、空間的に見れば、当・愛知県地方のみならず日本全土、更には中世の中国から朝鮮半島に至るまでの、広大な地域に生きた膨大な数の人々が、知恵と力と業績とを豊饒な土壌に秘めつつ、今日を待つておりました。その人々の声なき謝意を、不肖、私がかわりましてお伝えする次第でございます。

それだけに、この事業は、数多くの方々のお力をもつて、受けとめ、理解し、伝承発展させて行くべきものと存じます。

ところで、ご存知の如く、当地方は時の歴史の推移を、色濃く映しております。例えば、古事記真福寺写本は、尾張国中島郡長岡庄（現・羽島市）に於いて、後村上天皇の命で信濃和上の弟子であつた賢論により上中下各巻の写本がなされ、文中元年（二二七二）に完成されたと伝えられています。本曾川と長良川の三角州に位置する当所は、洪水の被害を受け易いこともあり、慶長十七年（一六三三）徳川家康は、名古屋城築城と同時に、当・真福寺を古事記真福寺写本を内蔵する真福寺文庫共々、現在の名古屋市中区大須の地へと移しました。曾って、私も旧・真福寺跡をたずねたことがあります。わびしい廃寺となつており、感無量の思いでございました。現在は、如何なつていることでしょうか。

時は過ぎて明治三十八年四月（一九〇九）、古事記真福寺写本は国宝指定を受け、昭和九年には黒板東大教授等により同文庫が研究された結果、その重要性が認識されて、鉄筋コンクリート造の耐震・耐火・耐水に優れた平地下壕を造り、そこで丁重に守られたということです。昭和十四年（一九三九）、古事記真福寺写本は最重要の国宝であるとして、東京国立博物館に移動保管されました。そして平成五年四月（一九九三）、各方面の運動もあり、古事記真福寺写本は名古屋博物館に寄託される形で、こゝ名古屋の地へと帰郷したのです。通常、国宝が東京博物館から地方の博物館へ移されることは、きわめて異例のことであり、名古屋が非常に信頼されている現われと見られています。

当時の私には、一つの夢がありました。それは、「名古屋総合文学研究所」のような機関を設立して、ここに於いて名古屋のそれぞれの文庫や美術館等々に内蔵されている宝庫書を登録し、そこを日本を代表する古典研究のいわば本山にすることでした。勿論、未熟な夢でしたけれど。折から、中部国際空港も建設されようとしており、こゝ名古屋は交通の便まで加わろうとしていたのです。「日本古典文学が知れたければ、名古屋へ行け」とばかりに、古典文学の研究者や愛好者が、日本

中にはいうまでもなく、世界各国からも訪れる日のことを、想像しただけでも胸がおどるようでした。

それが本日、遂に私の見たまたまた未熟だった夢は、立派な構想と共に、「文字文化財研究所」として、確かに実現される日を、迎えることとなったのでございます。私の喜びの深さは、きつと皆様にもお分かりいただけることでしょう。

ところで、現在の私は体調を傷めてから久しく一級一種の内部障害にも認定されて、残念ながら御一緒に果しない探求の旅へ出掛けることは、もはや叶いません。

どうか皆様におかれましては、この広大無辺の文学的山脈に奥深く立ち入り、存分に研鑽を積み、その結実を広く世に及ぼして行かれますよう、衷心より期待しております。

平成二十年三月十二日

以上

文字文化財研究所の活動実績と計画

平成二十年三月

◎平成十九年度活動実績

当研究所は平成十九年度に文学部内の公的組織として発足しました。初年度中の活動実績は以下のとおりです。

- ・地域連携事業の一つとして、文学部棟G八〇七室に研究所を開設しました。
- ・直通電話番号一八とメールアドレスを得て学内外との連絡を確保しました。
- ・平成十九年十一月からホームページをひらき研究所の設置趣旨を公開しました。
- ・平成十九年度中に野間大御堂寺および荻野検校顕彰会との連携が成立しました。
- ・上記の他にも国文学科の教員が県内の図書館美術館等に連携を申し入れました。
- ・平成十九年十二月から愛知県図書館と協力して貴重図書の展示企画をはじめました。
- ・平成二十年一月に県内一〇〇弱の各種機関に設立の挨拶と活動の趣旨を郵送しました。
- ・平成二十年三月に研究所の設立記念講演会を学術文化交流センターで開催しました。
- ・平成二十年三月に研究所の年報第一号を発行しました。

ました。

◎平成二十年活動計画

新しい年度にはいよいよ具体的な活動を開始します。以下は文学部の国文学科と日本文化学科の教員が予定したり構想している計画です。

一緒に活動しませんか？情報をもちたてたらお教えください。ここに列挙した以外にも情報や構想をお持ちでしたら声をお寄せください。多くの皆様と連携して幅をひろげ内容を充実していきたいと存じます。

なお、以下に連携先としてあげさせていただいた各位には、当研究所から協力関係の申し入れをさせていただいたか、あるいは国文学科の教員が前もってお話しをさせていただいておりますが、(予定)とあります場合は、いずれ申し入れをさせていただきます。それに先立ってお名前を書いておりますこと、もし失礼にあたりましたら御海容ください。

一、調査・研究活動(継続的)

二、平曲の研究と普及活動

平家物語の琵琶語りを「平曲」といいますが、

現在、検校として活動しているのは愛知県在住の今井登氏が唯一人です。また、平曲の譜本の写本として最良とされる『平家正節』が、名古屋市の尾崎家に伝えられており、名古屋市の文化財に指定されています。

尾崎家を中心とする荻野検校顕彰会が平曲の研究と普及活動を永年にわたって行っていますが、平成十九年度中に同会と文字文化財研究所との間で連携・協力の合意が成り立ちました。今後は、大学の機関として同会の活動に参加し援助するとともに、大学の教育に平曲をとりあげて他県にない貴重な文化を継承・発展し全国に情報を発信する活動を行います。

その皮切りとして、平成二十年三月十二日に文字文化財研究所設立記念講演会を開催して、荻野検校顕彰会の代表尾崎正忠氏に「荻野検校と平曲譜本―尾張藩の文化―」と題して講演をいただきました。

平成二十年度は、同会が取り組んでいる尾崎本『平家正節』の複製CDと今井検校による平曲口演のDVDの公開を実現するために、公立の大学の立場から協力します。また、その知見を大学教育にも取り入れて、授業の内容の高度化と人材の育成をはかります。

連携先…荻野検校顕彰会、芸能史研究会（予定）



文字文化財研究所設立記念講演

二 野間大御堂等の絵解きおよび寺宝の研究

美浜町野間の大御堂寺（野間大坊）には源義朝の最期を語る絵解きが伝承され現在も住職が行っておられます。

絵解きは全国数カ所しかに残存していない、貴重な無形文化財です。野間の絵解きは君臣の道を説く目的で徳川家康が命じてはじめさせたと伝えられ、絵図の装幀は家康の着衣の拝領生地を使っている由です。その事情に関わる文献も同寺に所蔵されています。

平成十九年夏に文字文化財研究所として同寺を訪ねし、絵解きの普及活動とそれに関する文献の調査・研究を連携してすすめる合意が成り立ちました。それに先だって、美浜町教育委員会にも連

携を申し入れました。

連携先…大御堂寺、美浜町教育委員会（予定）

三 愛知県図書館との連携事業

県立の公的機関として、本学芸術情報センターの図書館とともに愛知県図書館と連携して、県内の文献文化に関する研究と情報普及活動を今まで以上にすすめます。当面は、平成十九年度中に企画が固まった展示の実施に取り組みます。

愛知県図書館を会場として、平成二十年秋に本学図書館の蔵書を表示し、会期中に二回の講演会を開催します。文字文化財研究所は、内容の企画と展示品の説明を担当するとともに講演会のうち一回を所員が担当します。他の一回の講演会は、愛知県立大学文学部の教員を中心とする科学研究費補助金基盤研究S-いっくさに関わる文字文化と文物の総合的研究、開催の大規模な国際シンポジウムに協賛する形で行います。

研究所員の多くが同基盤研究の構成員です。今回の企画の後、愛知県図書館の展示企画に継続的に協力する所存です。また、本学の図書館が構想している館内展示を行う企画にも積極的に連携・協力していきます。

連携先・愛知県図書館 本学図書館

四 本学学術情報センター図書館の蔵書調査

本学図書館の蔵書の善本調査は国文学科の教員がかねてから継続していますが、平成二十年度は、『文久写本狂言本』の調査と研究を行います。

文久元年（一八六二）から翌年に書写されたものですが、幕末五箇年派の狂言の特徴をよく示し、幕流狂言の代表的な台本『寛政通本』に酷似する内容をもっています。収録された台本の中には未公刊のものもあります。

この写本を現行の活字に直して翻刻・公刊し、研究の成果を雑誌等に公開して、斯界に提供する予定です。すでに本学の教員、旧教員、大学院生、大学院修了者からなる研究会が発足しています。連携先・本学図書館、あいち国文の会

五 平曲に関する講演会またはシンポジウム開催の準備

平成十九年度に荻野稔校顕彰会との連携が成り立ち、文字文化財研究所の設立記念講演会に平曲の譜本に関する文化史的な内容の講演を実現しま

した。平成二十年度には、顕彰会と協力して平曲の研究と普及活動をさらに進めます。

二 新規に計画している活動

一 近世尾張の古民芸

二 天道社に関する文献と情報の収集

三 『続金葉書』の研究

四 小酒井不木文庫（愛知医科大学図書館）の調査・研究と大学教育への反映

五 名古屋モダンビズの研究

六 豊田市中央図書館の本多兄弟文庫に関する調査・研究と情報の整理

七 名古屋博物館や名古屋市蓬左文庫、徳川美術館との協同研究

八 鈴木朗（江戸後期の明倫館教授）を顕彰する鈴木朗学会との連携

九 文字文化財の取り扱い方をテーマとする講演会の開催

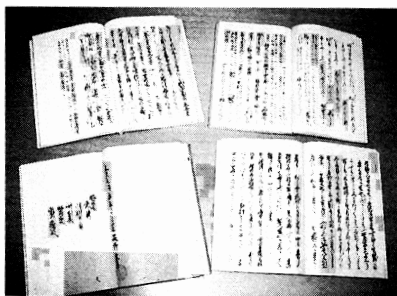
この他、県内の公立・私立の教育・研究機関、図書館等との連携事業、全国の国立・公立の教育・研究機関との情報ネットワークの構築をすすめて行きます。

学生自主企画研究

「古典籍の魅力―21世紀の子ども達へ語り継ぐお伽草子―」活動報告

文学部国文学科二年 田川聡子

私は、今年度、愛知県立大学の地域連携事業の一環として行われた学生自主企画研究「古典籍の魅力―21世紀の子ども達へ語り継ぐお伽草子―」に加わり、主に画像編集を担当しました。地域の貴重な資料にふれる機会を頂き、資料の扱い



『文久写本狂言本』

方や、効果的に資料を活用する方法など、多くのことを学ばせて頂くことができました。この企画研究でどのような資料を使い、どういったものを作成したのかご報告申し上げます。

愛知県西尾市岩瀬文庫、三重県の斎宮歴史博物館が、研究テーマにご理解をくださり、貴重な資料をお借し下さいました。扱う資料についての解説や、読み聞かせ活動へも指導頂きました。西尾市岩瀬文庫からは『梅津長者物語』と『獣太平記』を、斎宮歴史博物館からは『百鬼夜行絵巻』の画像データを提供頂きました。

この企画研究では、お借りした資料を〈絵巻〉と「パワポイントスライド」の二つの形で使用しました。〈絵巻〉の形は鑑賞できる人数が限られるため、多人数への読み聞かせにも対応することを目的に「パワポイントスライド」を作りました。以下に、この三つの資料について、どのような形で使用したかを述べます。

まず、『梅津長者物語』について述べます。このお伽草子は近世前期に成立しました。正直で貧しい左近丞夫婦が、福の神の助けを得て、梅津の里の長者となり幸福に暮らすという話です。

岩瀬文庫蔵『梅津長者物語』は巻子本で二巻の形式です。奥書から幕府御用絵師・住吉貞慶名は廣澄、通称内記、筆本を模写したものであると

分かります。模写は文政二年（一八一九）に行なわれました。紙が薄く、淡い彩色で着色の省略もあることから、粉本として制作されたとみられています。

読み聞かせに向けて、詞書を現代語訳し、子供を対象にした平易な訳（以下「子ども訳」と、その中国語への翻訳を行いました）。

画像は、〈絵巻の複製〉と「パワポイントスライド」作成を行ないました。絵巻を複製する際には、絵巻の天地をA4縦に合わせて縮小しました。着色が省略された部分は、絵中に注記された色の指定と前後の場面を参考にして彩色しました。詞書部分をほぼすべて除き、絵のみを取り出した二十三枚のスライドで構成しました。長い場面は、絵を二、三枚のスライドに分割しました。

次の岩瀬文庫蔵『獣太平記』は、江戸前期の寛文年間に『十二類絵巻』を改題し、絵入り製版本として版行されたものです。『十二類絵巻（十二類合戦絵巻）』の成立は、室町時代中期以前と考えられています。

十二支から恥をかかされた狸が、十二支に対抗して軍勢を集め、合戦をおこないます。しかし、狸軍は敗北し、狸は鬼に化けて復讐しようとしています。これも失敗に終わったため、狸は妻や子を残して出家してしまうという話です。

翻刻、現代語訳と子ども訳、子ども訳の外国語（英語・フランス語・スペイン語・ロシア語）への翻訳を行ないました。

『獣太平記』は製版本ですが、巻子本のかたちに変えて〈絵巻〉一巻を作りました。絵に着色はされていないので、他の『十二類絵巻』を参考に彩色を加えました。絵巻に仕立てる際は、詞書部分を上下二段に分けました。下段に絵に対応した子ども訳、上段にはフォントシヨプを使用して、版本の変体仮名を縮小したものを載せ、変体仮名も見ることができるようになりました。

三つめに『百鬼夜行絵巻』について述べます。『百鬼夜行絵巻』の現存最古本は、京都市大徳寺真珠庵蔵の伝本で、室町時代後期に描かれました。斎宮歴史博物館蔵本は、江戸後期に模写されたものです。

『百鬼夜行絵巻』には、赤鬼・青鬼や、鰐鰯・口・烏兜・靴・琵琶の妖怪「琵琶ばくばく」・赤玉・鉄・黒い布の妖怪、そして化粧をする女の妖怪等々、多様な妖怪が行進する様が描かれています。

この絵巻は、詞書が無い絵巻です。そのため、詞書の創作も行ない、〈絵巻〉一巻と「パワポイントスライド」を作成しました。

絵巻は、創作した台本に合わせて、せりふの吹き出しを貼付けるよう工夫を加えました。パワーポイントには、絵巻を十六枚のスライドに分割して制作しました。当初は、絵巻と同様に、アニメーション機能で吹き出しを加えていましたが、学芸員の方にアドバースを頂き、吹き出しを出す動きから、台詞を話す妖怪が大きくなるなどの動きに変えました。

以上で、報告を終わります。地域の文化財活用の一例となれば幸いです。今年度の企画研究期間はずでに終了しましたが、今後も同好会「絵巻の会」として活動が続いていくこととなりました。今回の企画研究で見つかった改善点や、多くの方から頂いたご指導とご意見を有意義に生かし、これからの活動につなげたいと思います。



【お問い合わせ先 emakinkai@google.com】

文字文化財研究所の年報第一号をお届けします。当研究所の趣旨は、先にお送りしましたご挨拶に添えたとおりです。今年度から発足しましたが、短い期間に相当の成果を上げることができました。ご支援とご協力を賜りました各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

年報第一号は、活動報告のほか、阿久根治子氏に頂戴した祝辞を掲載しました。お読みいただいで、当研究所設立の背景と意義がよくご理解いただけるかと存じます。また、本学国文学科一年生田川聡子さんの活動報告を掲載しました。県内外に所蔵されている貴重な文字文化財と文物の価値にふれ、学び、それを子どもたちの情操の育成や国際交流に生かして行くみずみずしい経験が語られています。当研究所の直接の活動ではありませんが、地域の文化の振興と、それに携わることでできる人材養成の一例として紹介させていただきます。

この年報は毎年三月に発行いたします。質量ともに次第に充実して参ります。どうかお声をお寄せください。投稿も歓迎いたします。



二〇〇八年三月発行

愛知県立学 文字文化財研究所

〒四八〇―一九八 (所在地記載不要)

TEL・〇五六―一六四―二二八 (直通)

<http://www.itschi-pu.ac.jp/kbmzobun/>